

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立 石浜小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等全学年・学級活動
特別の教科 道徳

目標・人権教育のねらい

- ・日常生活での他者との関わり方を標語を作って伝え合うことを通して、自分の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。
- ・誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、「いじめ」を許さず、正義の実現に努めようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・人権標語づくりを学期ごとに計3回行った。それぞれ「あいさつ」「思いやり」「感謝」というテーマにそって一人一枚書き上げ、廊下に掲示をした。
- ・人権発表集会を標語づくりに合わせて行った。学年の代表者に作成の意図や思いをインタビューして、感想を伝え合う活動を取り入れた。
- ・全学年、特別の教科 道徳 内容項目C「公正、公平、社会正義」を重点項目としていじめ防止に向けた指導を行った。

工夫した点

- ・人権発表集会は、Teamsを活用したリモートでの実施であったが、標語を聞いた感想を学校全体へ伝える時間を多く確保した。標語を作成した児童の自尊感情を高めるとともに、友達への「あいさつ」「思いやり」「感謝」の大切さを校内全体へ広められる機会とした。
- ・新型コロナウイルス感染症に関連する偏見や差別につながる発言や態度は許されないものだという説話を事例を変えながら、繰り返し行った。

他教科との
関連

特別の教科 道徳 内容項目B「親切、思いやり」C「よりよい学校生活、集団生活の充実」と人権標語の活動と関連付けて指導した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立 石浜小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

小学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者や福祉に関わる人へのインタビューや高齢者体験を通して、心身に支援が必要な場合があることを理解し、高齢者とのより良い関わり方について考えるとともに、自分にできることをすすんで行おうとする意欲や態度を育てる。

実施した内容

- ・身近にいる高齢者のことを振り返りながら、高齢者に対するイメージを話し合う。
- ・身近な高齢者へインタビューをして、これから学習していく課題を決める。
- ・高齢者が抱えている課題に関する内容を調べる。
- ・学習したことを振り返り、自分の考えを深める。

工夫した点

- ・高齢者体験をしたり、身近な高齢者や福祉センターの職員へのインタビューを設定したりして、高齢者に関する課題を「自分ごと」として捉えられるようにした。
- ・自分たちの祖父母へのアンケートを作成し、実施したことで、実態を通して、課題を捉え、自分たちができることを主体的に考えることができた。

他教科との
関連

- ・算数「ぼうグラフと表」にて、アンケート結果を棒グラフにまとめて発表した。
- ・特別の教科 道徳「おじいちゃんの手」【感謝】、「おばあちゃんのおせち」【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】についての学習をした。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立 石浜小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

小学4年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

・アイマスク体験や視覚障害者との交流活動を通して、障害のある人の思いや障害者を支える人々の取組や思いに気づき、障害のある人と共に生きていくために必要なことを考えるとともに、障害の有無に関わらず共に生きていくことの大切さを感じながら生活していくことができるようにする。

実施した内容

- ・アイマスク体験の計画を立て、アイマスク体験をする。
- ・視覚障害者と交流し、課題を設定するとともに、その解決に向けて学習計画を立てる。
- ・パラリンピックを鑑賞し、パラリンピックの魅力を低学年に伝える。
- ・学習したことを振り返り、自分の考えをまとめる。

工夫した点

- ・アイマスク体験や視覚障害者との交流を行い、視覚障害者の課題を「自分ごと」として捉えられるようにした。
- ・東京パラリンピックの開催に合わせて、調べ学習を行ったり、実際に観戦したりすることを通して、課題意識を継続させ、障害に対する正しい知識を身に付けられるようにした。

他教科との
関連

- ・社会科「世界につながる大田区」の学習にて、共生社会のまちづくりについて学習をした。
- ・特別の教科 道徳にて「心を結ぶ一本のロープ」【親切、思いやり】、「車いすをあやつって」【公正、公平、社会正義】について学習をした。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立 石浜小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・社会科

目標・人権教育のねらい

・明治の国づくりを進めた人々の中で、特に「身分上差別されてきた人々」を通して、この頃の政治の仕組や世の中の様子の変化を考え、社会の中の人権課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力を養う。

実施した内容

- ・文明開化について資料を通して理解する。
- ・明治時代になって変わったものを調べる。
- ・「学制公布後の就学率の変化」のグラフを見て、人々の生活の変化の様子を考える。
- ・長い間差別に苦しめられてきた人の代表として、「弾直樹」について調べ、明治初頭の改革について「自分だったらどうするか」の考えをまとめる。

工夫した点

- ・革を扱った工場が多い地域の特色を生かし、この地域の先人の優れた技術によって、日本の産業を支えることになった事実を基にして、地域への愛着を深められる単元構成の工夫をする。
- ・公民的資質を養うために、「自分だったらどうするか」という視点に立った話し合いを行う。
- ・人権課題「同和問題」を取り上げた既習事項を系統的に関連付けながら学習し、偏見や差別を解消するための方法を児童自ら考えられるようにした。

他教科との
関連

総合的な学習の時間にて「皮から革へ」というテーマで、皮革の歴史、製造法、魅力等に関する自らの課題を立て、追究する学習をした。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立 石浜小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病について正しく理解するとともに、偏見や差別なく互いの人権を尊重しながら共に生きていくために必要なことを考え、ハンセン病に関する過去や現在の実態等の課題について追究する活動を通して、自分のこれからの生活に生かそうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ハンセン病とはどのような病気なのかDVDを視聴して知る。
- ・学習課題を立て、自分が調べたいことについて探究活動を行う。
- ・発表会を開き、互いの考えを発表し合うことで情報交換をする。
- ・学習したことを振り返り、自分の考えを深める。

工夫した点

- ・法務省作成の人権啓発動画を視聴し、人権課題「ハンセン病患者等」の概要を理解し、自分の学習課題を立てられるようにした。
- ・単元の終末に自らの学習を振り返るとともに、「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟の首相談話」を報じた新聞記事を読み合い、自分の考えをまとめる。

他教科との
関連

- ・社会科「くらしと情報」にて、インターネットを活用し、正しい知識を身に付ける学習をした。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立 石浜小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ SNS上での他人との関係や、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味、情報には正しいものと誤ったものや危険なものがあること、文字によるコミュニケーションはトラブルが生じやすいことなどの情報モラルを身に付けて、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

実施した内容

- ・ 実際に起こったインターネット上のトラブルについて、資料や動画を活用して知る。
- ・ 学習課題を立て、自分が解決したい内容について追究していく。
- ・ 発表会を開き、情報交換をし、自分の考えを伝える。
- ・ 学習したことを振り返り、自分の考えを深める。

工夫した点

- ・ 情報を整理できるように、思考ツールを活用し、視覚的にとらえられる手だてとした。
- ・ 実生活における場面を提示することにより、自分であればどのような判断をするかという視点に立ち、意見を共有しながら話し合いを行った。
- ・ 社会科等の既習事項を関連付けながら学習し、SNS上のトラブルを無くすための方法を児童自らが考えられるようにした。
- ・ 啓発的な活動として、台本や配役、演出等を児童が考えて、動画を作成した。

他教科との
関連

- ・ 国語科「想像力のスイッチを入れよう」にて、情報の活用の仕方を身に付ける学習をした。
- ・ 社会科「くらしと情報」にて、インターネットを活用し、正しい知識を身に付ける学習をした。